白河小天狗

帝キネ芦屋時代映畫

原作者　井手蕉雨氏
脚色者　小國比沙志氏
監督者　唐澤弘光氏
撮影者　立花光三郎氏

――主要役廻――

白河小大狗鐵五郎　市川百々之助氏
白河の清五郎　片岡童一郎氏
中田の鳴藏　實川延笑氏
清五郎子分　早樋の三次　片岡紅三郎氏
同　とん〳〵の治助　嵐璃運兒氏
早瀨の傳九郎　東良之助氏
傳九郎子分　赤鬼仁三　岩井竹綠氏
鳴藏女房おれん　小池春枝嬢
鐵五郎女房お初　山下澄子嬢

解說――技師唐澤弘光氏が監督昇進第一回作品で、サンデー毎日所載の同名の新講談を映畫化したもので、主演者市川百々之助氏は本映畫完成と共に退社する事になつた。

略筋――下野國那須郡黑羽の百姓の倅鐵五郎は常に男の中の男を勝く俠客を夢見て居た。或日山犬の傳次と云ふ村の惡漢が旅の父娘を苦めて居るのを見て彼は傳次を叩き伏せて了つたそれを其時通り掛つた奥州路の大親分白河の清五郎に認められ、鐵五郎は清五郎の身内となつた。かくて小天狗と異名を取り其勝れた眞陰流直傳の腕前に人々の戰いたのはそれから間もない事であつた。其者清五郎の兄弟分鳴藏の子分早瀨の傳九郎は鳴藏の女房おれんに人知れず戀して居たが、遂に怨りを賣ひ傳九郎は放逐された。或日、清五郎の宅へ巡禮の女が訪れた。そこへ丁度歸つて來た鐵五郎が樣子を聞くと、前に山犬の傳次に苦められて居た娘お初であつたお初は老父を失ひ、村の若者の迫害を逃れて彼を慕つて來たのであつた。それからお初は清五郎の一家族として暮す事になつた。同情は戀と變り鐵五郎とお初とは戀を語る樣になり鳴藏の取持で媒禮の式を上げた。或夜清五郎宅から我家へ急ぐ極樂峠に差かゝつた時、とん〳〵の治助は急を鐵五郎に報じたが、彼が馳せつけた時、既に鳴藏は傳九郎の刀にかゝつて居た。そして傳九郎は闇に姿を消した。（以上前篇）

「白河小天狗」帝キネ芦屋時代劇部　唐澤氏第一回作品で同時に市川百々之助氏の最後の作品である

――（上は前篇下は後篇）――